

# くも膜下出血術後のピヴラッツ® 投与ガイド

監修：広南病院 脳卒中ケアユニット

エンドセリン受容体拮抗薬 薬価基準収載  
**ピヴラッツ®** 点滴静注液 150mg  
 劇薬、処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること  
 PIVLAZ® I.V. Infusion liquid 一般名 クラゾセンタンナトリウム



- くも膜下出血の手術後の脳血管攣縮、それに伴う脳梗塞や脳虚血症状の発症を抑える薬です。
- くも膜下出血発症後から48時間以内を目安に投与を開始してください。

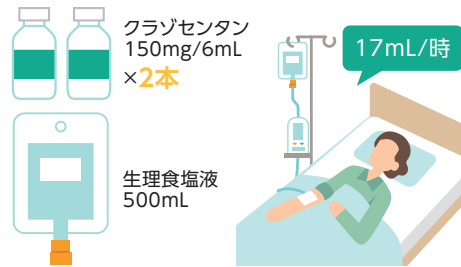
## 主な副作用

頻脈性不整脈、頭蓋内出血、体液貯留(肺水腫、胸水、脳浮腫など)、低血圧、血圧低下、貧血、肝機能異常

## 投与方法

### 成人に投与する場合

- クラゾセンタンとして300mg(6mLバイアル**2本**)を生理食塩液500mLに加える。
- 流量設定が可能な輸液ポンプ(容積制御方式又は滴下制御方式)を用いて**17mL/時**の速度で静脈内に持続投与する。[クラゾセンタンとして**10mg/時**]
- **「中心静脈」又は「末梢静脈」**からの投与とする。
- 他の薬剤と混ざらないように、**単独で投与**する。
- 析出を考慮し、**0.2µmフィルター**を通して投与する。
- **24時間ごと**に薬剤を交換し、残液は廃棄する。



## 投与に注意が必要な患者さん

	中等度の肝機能障害患者 (Child-Pugh分類 クラスB)に 投与する場合	リファンピシンと 併用する場合
クラゾセンタンとして	150mg(6mL) (6mLバイアル <b>1本</b> )	150mg(6mL) (6mLバイアル <b>1本</b> )
点滴速度	<b>17mL/時</b>	<b>8.5mL/時</b>
クラゾセンタン用量	<b>5mg/時</b>	<b>2.5mg/時</b>

## 発症日からの投与日数の数え方の例

- くも膜下出血術後早期に本剤の投与を開始し、**くも膜下出血発症15日目まで投与してください。**…最大30バイアル

発症日	… 1日目															終了
5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	

例1:発症1日目午後投与開始

15日間投与(30バイアル)

投与終了は5/16午後

例2:発症2日目午前投与開始

14日間投与(28バイアル)

投与終了は5/16午前

例3:発症3日目午後投与開始

13日間投与(26バイアル)

投与終了は5/16午後

## 併用注意

薬剤名等	理由／注意事項
ファスジル塩酸塩水和物	本剤とともに血管拡張作用を有することから、血圧及び出血傾向に影響を及ぼす可能性があります。血圧低下が増強される可能性があります。また、出血傾向の増強をきたすおそれがあります。併用する場合には、血圧及び出血の徴候を観察するなど注意してください。
血管拡張薬 ニカルジピン塩酸塩等	本剤及びこれらの薬剤は血管拡張作用を有することから、血圧に影響を及ぼす可能性があります。血圧低下が増強される可能性があるため、血圧を観察するなど注意してください。
オザグレルナトリウム	本剤は血管拡張作用を有することから、出血を助長する可能性があります。出血傾向の増強をきたすおそれがあります。併用する場合には、出血の徴候を観察するなど注意してください。
リファンピシン	OATP1B1/1B3の阻害作用により、本剤の血漿中濃度が上昇する可能性があります。OATP1B1/1B3の阻害作用のない薬剤への代替を考慮してください。
OATP1B1/1B3を阻害する薬剤 シクロスポリンA、ロピナビル、リトナビル等	これらの薬剤のOATP1B1/1B3の阻害作用により、本剤の血漿中濃度が上昇する可能性があります。OATP1B1/1B3の阻害作用のない薬剤への代替を考慮してください。やむを得ず併用する際には、減量を考慮し、患者の状態を慎重に観察し、副作用発現に十分注意してください。
QT延長を起こすことが知られている薬剤 アミオダロン、モキシフロキサシン、キニジン等	本剤及びこれらの薬剤は、いずれもQT間隔を延長させる可能性があるため、併用により作用が増強するおそれがあります。QT間隔延長、心室性不整脈(Torsade de Pointes:TdPを含む)等の重篤な副作用を起こすおそれがあります。

## 投与開始時、投与中及び投与後の観察ポイント

観察ポイント	投与開始時	投与中/投与後	対処
体液コントロール 肺水腫、胸水、脳浮腫等の体液貯留が発現することがあります。		体液量の調節に留意してください。 体液貯留の初期症状を十分に観察してください。	特に、Triple H療法又はHyperdynamic療法が併用される場合は、体液貯留リスクが増強するおそれがあるため、慎重に体液量を管理してください。
血圧モニタリング 血圧低下が起こることがあります。	血圧が適切にコントロールされている状況下で投与を開始してください。	投与中は血圧を十分にモニタリングしてください。	
ヘモグロビン値測定 ヘモグロビン低下があらわれることがあります。	本剤の投与開始前にヘモグロビン値を測定してください。	必要に応じて本剤の投与中にヘモグロビン値を測定してください。	
心電図測定 QT間隔の延長があらわれるおそれがあります。	本剤の投与開始前に心電図を測定することが望ましいです。	本剤の投与中に心電図を測定することが望ましいです。	異常が認められた場合には、適切な処置を行ってください。
臨床症状及びコンピューター断層撮影 頭蓋内出血があらわれることがあります。		臨床症状及びコンピューター断層撮影による観察を十分に行ってください。	頭蓋内出血が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行ってください。
肝機能障害を有する患者 血漿中濃度が上昇するおそれがあります。	肝機能検査を行ってください。	肝機能検査を行ってください。	肝機能検査を行い、臨床的に顕著に肝酵素(AST、ALT)が上昇した場合、総ビリルビン値が基準値上限の2倍を超える場合、又は黄疸などの肝障害の徴候を伴う場合は、本剤の投与を中止してください。
生殖能を有する者 (妊娠可能な患者)	本剤の投与開始前に妊娠していないことを確認してください。	本剤の投与終了後一定期間は避妊するよう指導してください。	本剤の投与終了後一定期間は避妊するよう指導してください。
授乳婦		治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討してください。	治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討してください。

エンドセリン受容体拮抗薬 薬価基準収載  
**ピヴラッツ**® 点滴静注液  
150mg  
劇薬、処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること  
PIVLAZ® I.V. Infusion liquid 一般名 クラサンテンナトリウム

## ネクセラファーマジャパン株式会社

文献請求先及び  
問い合わせ先

ネクセラ DIセンター

フリーダイヤル **0120-664-553**

受付時間：月～金 9:00～17:00  
(祝日・当社休業日を除く)

JP-CL-00058  
PVM0002D  
2024年4月作成